



今年の雪と幼児

武 鎧 秀 子

大雪小雪ゆきこんこ、といつでも冬になると降雪を期待し、よろこび迎える子どもたちであるが、今年は未曾有の豪雪となりそのもつ威力をおしみなく振るったのである。今年も元旦早々まっ白い雪におおわれ、それ以来根雪となり、つもる一方だった。

一月十日三学期開始と共に、子どもたちはかるたやゲームあそびの話より雪あそびのことに花がさき、雪のうたやりズム表現

などでしばし楽しくあそんだ。しかし一週間もするうちに、積雪量は多くなるばかり、時折り猛吹雪をまじえ、子どもたちの通園をなやました。竜巻のような吹雪、一面灰色となって吹りしきる雪、前に歩いた人の足あともすぐうめつくされる有様で、危険も予想され、十六日、十七日と臨時休園とした。あけて十八日も雪はようしやくなく降り続く。そろそろ屋根の雪おろしがはじまる。登園退園の際の注意をなし、地域別に担

当の先生が引率する。毎日の天気予報は大
雪注意報、大雪警報の連続、二十三日にはど
うしてもこれ以上保育をつづけることがで
きず、当分無期休園とする。園舎もこの間三
回にわたり屋根雪の除雪。どの教室もまっ
くら、背丈よりも高い雪をおろすにもな
なかだけれど、落した雪のしまつに困り、た
だただ自然の猛威のなすままに、処置の方
法すらなかった。人々は大きな冷蔵庫の中
に毎日を過した。こうなると雪に対する子
どもたちの夢もすっかり消えうせる。外に
も出られず、そうかと言ってお正月の延長
のような気分にもなれず、毎日を雪と戦う
家族の様子をみて、幼児なりにできる手伝
いや、みんなに迷惑をかけないように、い
つもの約束を思い出して実行してくれたこ
とと思う。また中には雪のために楽しい幼
稚園に行くことができぬとて外を眺め、早
く降りやんでくれることを祈っていた子も
あっただろう。とにかく、二米一三という
積雪量のため鉄筋の小学校の講堂がつぶれ
たとか、いろいろな惨害をテレビやラジオ
で視聴する。幼児なりに今回雪をどう
思ったか、雪による楽しいあそびよりも日

々耳にあるいは目で見る災害に胸をいためたことだろう。毎日の天気予報に子どもながらもしっかり聞き入ったことと思う。むつかしい気象の専門語にも次第に関心が高まる。そもそも豪雪ということについて気象庁のはなしを記してみると、

「大雪というのは長い期間降りつづく雪のことで、期間は短いが多量の降雪のある場合は強雪と言うことになっている。大雪でもあり強雪でもあった場合を豪雪と言う」。北陸はこうしたありがたくないお客様を迎えたわけである。交通機関は全部ストップ。不安と不便を克服する一方、緊急災害対策本部の指令のもとに、待望の自衛隊の方たちの涙ぐましい活躍と市民全部の協力、併せて天候の回復と相まってようやく人心に安心感を与え、勇気をわかせる。二月四日前後より各学校は授業を開始した。本園は通園区域など考慮して二月十日から本格的に保育を再開したが、まだ一部の子どもたちは乗物の都合でお休みする者もあった。ガラス窓は全部雪におおわれ、空はお部屋からさえぎられ、まっくらな園内を見て、「雪っておそろしいね」と二十日あま

りのお休みの間に体験した話が出る。また一方、まけずぎらいて元気な子どもは「もつと降っても平気だぞ、飛行機で空から葉をまいて消せばいいんだよ」「そうね、そうすることができるようになると、みんなも心配しないでいいわね」。科学する芽生えがちよっぴり伺えた。或る女の子はお砂糖なら、氷菓子ならうれしいと話し合っていた。なだれについても余りよく理解されなかつただろうに、いろいろな災害のおこるのを知るたびに経験は広まっていた。

困る雪 恐ろしい雪、うれしい雪など：子どもなりに感じとったことであろう。特に健康面、衛生面などは、進んで気づいて実行するようになった。テレビ視聴中、雪あそびなど雪に関したものは、見ている子どもも目も一段と緊張し、一つひとつの場面をくいく入るように眺めている。とにかく、子どもたちを含めて北陸の人々は大雪の恐ろしさというのをいやと言う程経験したのである。教師は保育後、いまだに窓より高い雪の除雪に余念がない。しかしお日様の輝きに、一日一日とその量は減少してゆく。深い雪国のこの地にも、しのびよる春

の訪れが感じられる。もう少し消えたら、子どもたちを雪の上に出して思いきりかけっこさせたり、制作の意欲を満足させてやりたいなど、楽しい思い出となるような経験をさせてゆきたいと思う。

(福井 尾上幼稚園)

日本保育学会第16回大会

日時 五月十八日(上)～十九日(日)

会場 香川県高松市

市民会館 県庁ホール

内容

(イ)研究発表
(ロ)シンポジウム

「就学前の家庭教育のあり方」

(ウ)その他 課題研究・公開講演など

参加資格 正会員 準会員(当日受付)

連絡先 香川県高松市幸町二二一

香川大学学芸学部心理学教室内

日本保育学会第十六回大会準備委員会